

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502348		
法人名	有限会社 レイロ		
事業所名	グループホーム 涼風		
所在地	札幌市豊平区中の島2条7丁目4番5号		
自己評価作成日	平成23年9月15日	評価結果市町村受理日	平成24年1月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでの理念にもある「ゆったり 穏やか 安心 安全」に過ごして頂ける様に、全職員が意識を常に持って、支援を行なっている。
利用者さまに関しても、ご本人らしい生活を送れるように努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502348&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成23年10月6日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から少し入った静かな新興住宅地で、近くに整備された広い河畔公園があり、環境に恵まれている。
施設らしくない、家庭的な雰囲気を大切にしている。介護度の高い利用者も安心してゆっくり静かに過ごせるような配慮から、レクリエーションやボランティアの来訪なども状況に合わせて適度になるよう調整している。
代表者は現場の職員を大切にする方針に徹して現場の職員の意見を基本に運営しており、また、職員が働きやすい職場環境作り、労働管理を行っているため、職員のモラルが高く、信頼関係が厚い。これらのことが利用者の介護にも反映されて、安心できる、平穏な生活を支えるものとして重要視されている。普通のご家庭に近い生活をしてもらうために、意識的に男性職員の数を多くしている。
利用者一人ひとりを大切に、アセスメントを丁寧に行い、特に過去経歴、ライフストーリーを細かく記載して思いや意向の把握、人格尊重の基本に据えている。

V. サービスの成果に関する項目(1Fアウトカム項目) ※項目№1～55まで日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど揃っていない		○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど揃っていない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念と共に、フロア理念を作り、理念を目標とし職員全員で理解し、支援につなげている。	事業所理念に加えて、職員が話し合っで決めたフロアごとの理念が設けられており、前年の外部評価での助言に基づいて地域密着型の意義を取り入れた。玄関と各フロアのリビングに掲示し、職員の名札の裏にも表記して周知に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は少ないが、散歩の際に挨拶をしたり、地域の行事に参加し交流をはかっている。	町内会に加入して運動会などの行事に参加し、また事業所の行事には近隣住民にも声をかけて招いている。近くのグループホームの夏祭りに参加して交流している。日常的に散歩の際など近隣に声をかけて親密化を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は挨拶程度の状況であるが、今後は町内会、運営推進会議等を利用し行なっていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施していたも、現在は実施期間が開いた状況になっている。今後は定期的に行なっていきたい。	今年初頭までほぼ2ヶ月に1回開催し、町内会長、民生委員、地域包括支援センター、家族などが参加し、利用者の生活ぶりや災害対策などについて話し合い、結果は全家族に報告しているが、現在はまだ開催していない。	12月には開催したいとのことなので、早期の実施を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市、豊平区の会議に参加し連絡を取り、必要時には代表者が札幌市の担当者に相談等を行い、協力関係を取れるように努めている。	区役所、市役所主催の会議に参加し、利用者に異例の事情が生じた時などには担当者と緊密に情報交換し、アドバイスを得ながら協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の業務の中で、職員間で話し合いをしており、必要時においては勉強会を実施している。	時折資料を基に勉強会を実施し、カンファレンス会議でも取り上げて職員間で話し合いをしている。資料は各フロアに置いていつでも見られるようにしている。身体的拘束はもとより、言語上の拘束にも注意を払い、働きやすい環境作りに配慮して、職員自身の気分的不調が不適切な言動につながることを予防している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を実施し、職員に対し説明を行っており、入浴時や更衣時に利用者の身体の状態を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表、管理者が研修に参加し理解しており、状況に応じてご家族様には説明を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な説明を行い、利用者・ご家族に不安を与えないように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族様の要望を聞き、職員間で把握し、改善策を話し合っている。	家族にとって率直な意見は出しにくいだろうとの思いを前提に、聞き出す努力や工夫をしている。運営推進会議の案内状には意見・要望の記入欄を設けアンケートを求めている。電話利用や夜間帯の連絡などで話しやすい場面作りの工夫をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は各フロアの主任が聞き、管理者・代表者へ報告し検討を行なっている。	代表者は現場重視、職員の意見尊重を基本理念としており、トップダウンを極力避けている。隔月の全体会議やフロアごとの打ち合わせ、あるいは日常的な業務の中で個別に聴取するなどの努力が行われている。	日常的な業務の中での臨機即応のコミュニケーションで多くの用は満たされていると考えているが、なお一層のレベルアップのため、学習会と組み合わせた会議を毎月定例化したい、との意向なので、その実現を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々、残業のない業務体制をとっており、働きやすい職場環境を築けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に勉強会を実施しており、知識・技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	担当者は市や区の管理者連絡会に出席し、同業者との交流をはかっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人との面談を行い、生活面を含め、利用者の不安を解消できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より、面談する時間を多く設け、困っていること、不安に思っていることを把握し、安心して生活を送る事が出来るように説明を行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時は、ご家族様・病院・施設等から情報を頂き、初期生活援助計画表を作成し、状況に応じた支援を行なえるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人の状況に合わせて、食器拭きや洗濯物をたたむ等の家事を手伝ってもらっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、利用者の暮らしぶりや健康状態等を担当者が手紙を書き伝えている。又、面会時に意見の交換を行なっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には居室でゆっくりと話しをしてもらえるように環境を整えている。	時折友人・知人が来訪した時は施設としても歓待し、応援している。家族の協力を得て墓参りや法事などに参加を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時間やレクを通して楽しく過ごしてもらえるよう、職員が間に入り会話が増えるような雰囲気作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の方とは手紙や電話連絡を通して近況を確認し、入院による退居の方には病院と直接連携を計っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何か行動を行う時は必ず本人と一緒に、同意を得てから行っている。訴えは傾聴し、表情や行動からも、本人の意向を把握するよう努めている。	アセスメントでは、担当職員が本人の立場に立って考えている。日常介護の中での利用者の反応で意向や思いはかなり良く把握できている。過去の経歴や認知症の病型を理解することも本人理解に重要な要素と考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や関係者から暮らしぶり等の情報を得て、本人からも昔の過ごし方等を傾聴している。又、病院・施設からの情報提供書ももらい経過を把握している。「ライフヒストリー」を作成し、今までの暮らし方や一人一人の思いを汲み取れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で同じ情報を共有する事を前提に、日々のケース記録、バイタル表、フロアシートに記録を残し活用している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングシート(1か月に1度)、カンファレンスシート(3か月に1度)を作成し、ご家族やご本人の希望を確認している。さらにカンファレンス会議で職員一人一人の気付きや意見をまとめ、画一的な介護計画ではなく、ご本人の状態に合わせた介護計画を作成している。	毎月のモニタリングおよび3ヶ月ごとのカンファレンスを基に介護計画を作成している。この中で本人や家族の意向を斟酌し、医療情報を考慮している。計画は担当職員がアセスメントを基に素案を作成し、計画作成担当者が監修して会議にかけ、他の職員の意見も取り入れて完成させる。家族の確認を得て実行計画とする。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録はケース記録として個別にファイルし、排泄状況や食事量、その他に変わった様子等があればフロアシートに記入し、職員が情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場の状況に応じてすぐに対応できるように代表、主任が24時間体制で支援できるよう努めている。又、協力病院との連携をはかり、かかりつけDrとも24時間体制で連絡が取れるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて、民生委員や警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と適切な医療を受けられるように支援している。協力病院から月2回の往診があり、又必要時に受診も行っている。入居前から、かかりつけ医がある利用者は、ご家族と協力し、通院支援をお願いしている。	入居の際に協力医療機関を紹介するが、従来のかかりつけ医の受診は自由である。協力医以外の受診は原則として家族同行であるが、家族事情によっては職員が同行し、その際「受診対応表」によって医師との間で健康状態や受診結果の情報を交換している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師には入居者と共に過ごしなが、バイタルチェック、健康管理や相談にのっていただいており、その他協力病院、訪問看護師にも連絡を取っており、都度対応できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族の意向を確認し、入院先と連携を密に取りながら早期退院を目指し、退院前には、代表・主任が状況確認、今後の対応を病院と相談し、対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から医師・家族・職員と話し合いや会議を行っている。ご家族には事業所で「できる事、できない事」を明確にし、伝え相談していいと同時に、職員個々の終末期に関する知識、技術の向上をはかって対応している。	入居の際に家族、医師、事業所間で十分な話し合いを行い、その結果に基づいて重度化に対する方針を書面で確認する。自身の口で食事できることが介護の限界であるが、家族の希望があれば終末の看取りをする用意もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変等に備え、職員は普通救命講習を受け、救命技能の向上をはかっている。マニュアル等も作成し、見やすい位置に貼って、いつでも見られる工夫をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、指導を受けている。水害時には前もって代表から各フロアの主任へ連絡があり、すぐに対応できるようにしている。	毎年度2回、消防署の指導の下に昼間および夜間を想定した火災対応訓練を行っている。今年度はまだ実施していないが、12月と3月に実施する予定である。水害対策については札幌市土木部と打ち合わせをしており、地震対策のマニュアルも整備されている。備品などについては水や発電機の用意がある。	今年度内に避難訓練を実施するよう期待したい。また、備品などの用意や保存食も用意するなど更なる充実を期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の理解に努め、自尊心を傷つけない関わり、礼儀を忘れないように気を付けて対応している。声掛け、話し方は利用者個々に伝わる言葉を使用し、排泄等の誘導の声掛けも他者に聞こえぬよう配慮している。個人記録も、事務所や安全な場所に保管し、個人情報保護法を遵守している。	利用者一人ひとりのライフヒストリーと個性を尊重し、本人が心地よく感じられるような呼びかけや言葉かけをしている。個人記録は各ユニットごとに鍵のかかる安全な場所で保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者主体で考え、あらゆる場面で選択できる場をもうけている。思いを伝えることが困難な方び対しては、答えやすい聞き方をし配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活リズムを把握し、その日の様子を見ながら、ご本人に合わせた利用者中心の生活を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には2ヶ月に1度、訪問美容を利用していただいている。個々の好みの色や柄をご家族に聞き、身に着けられるように支援している。		

グループホーム 涼風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る範囲で、盛り付けや配膳、片付けを手伝って頂いている。食事の時も朝・夕食は職員と一緒に同じテーブルにつき、楽しめるような話題を行ったり、また、家庭的な食器を使用し、あたたかい食卓になるよう配慮している。	献立は食材会社の栄養士が栄養バランスを考えて立てているが、誕生日には利用者の好きなものを提供するなど献立を変更することもあり、利用者家族にもらった野菜が食卓にのぼることもある。昼食については、食事介助や見守りの関係から職員1名が検食という形で利用者と共に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事、水分の量を確認し、一人一人に合った提供の仕方、声掛けを行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいを施行して頂いている。個々の状況に合わせて、介助にて口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを記録し、その間隔に合わせた声掛けや誘導を行なっている。失禁を防ぎ、不快のない生活を送って頂けるように配慮している。	「フロアシート」で利用者の排泄パターンを把握して、全員がトイレで排泄できるように支援している。利用開始時に家族がポータブルトイレを用意してくれているケースもあるが、現状ではまだ使用されていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日一度、乳製品を提供したり、体操等を取り入れている。毎日排便の確認を行い記録している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月～土曜の13時～15時頃までを入浴の時間とし、各利用者が週2回程度入浴している。状況に応じて他の時間もシャワー浴は可能で、拒否をする利用者には、職員や時間の変更、対応の工夫を行なって入浴して頂いている。	日曜以外の13時から15時頃までの時間帯で週2回を基本に入浴してもらっている。利用者の希望や状況に応じて時間帯や入浴日を変更し、入浴時はお湯を流しっぱなしの状態にしてきれいなお湯を使ってもらうなど、楽しんで入浴してもらえるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でもゆっくりと休息が取れるように支援している。夜間、寝付けない方には温かい飲み物を提供したり、ゆったり会話の時間をもったりと、入眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表をファイルし、個々の薬の目的、副作用、注意事項を把握している。服薬の際は最後まで見守り、服薬後はチェック表に記入している。薬の変更等があった場合、医師より説明して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にできる範囲で、家事・テレビ観賞・歌・花の水遣り・折り紙・塗り絵等を楽しんでいただいている。ライフスタイルや能力に応じた役割を持って頂いている。		

グループホーム 涼風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏季は近くの公園まで散歩を行い楽しいで頂いている。冬季は外出機会が減る為、ご家族に協力して頂き外出されるよう支援している。	利用者は、天候の良い時期には、希望すれば近隣の河畔公園などに毎日でも散歩することができる。個別のドライブや買い物にも対応している。冬場は事業所の周辺で日光浴をしたり、大型店への買い物など可能な範囲で外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームでお預かりしているが、利用者さんの状況、ご家族との相談の上、少額所持して頂いている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話できるような体制を取っている。ご家族への手紙や電話でのやり取り等、自発的に出来ない方に対しては職員が手伝う等し、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けや、優しい色合いの物を全体的に取り入れ、ゆったりと過ごして頂けるように配慮している。又、温度・湿度の管理、調整も時間を決めて行なっている。	共用空間は、全て整理整頓、掃除が行き届き清潔である。居間は採光が十分で明るく、居間や廊下には季節感の感じられる装飾品や和風の飾り物、鉢植え、写真などがセンス良く飾られ、居心地のよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の自席の他、ソファを置き自由にくつろいで頂ける様に心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個々の以前の生活スタイルが継続できるよう、ご家族にも協力を得て、なじみの家具や小物、仏壇等を持ち込んで頂き、その人らしい居室作り、安心して過ごせる環境の工夫をしている。	居室には利用者が自由に馴染みの生活用品などを持ち込むことができ、安心して過ごせる場所となっている。壁には利用者の誕生日ごとに職員が作成した写真と飾り物がセンス良く飾られ、居心地よく暮らせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体機能に合わせた居室の配置、手すりの設置、角にカバーをつける等、安全面を配慮し、安全で自立した生活を送れるよう配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502348		
法人名	有限会社 レイロ		
事業所名	グループホーム 涼風		
所在地	札幌市豊平区中の島2条7丁目4番5号		
自己評価作成日	平成23年9月15日	評価結果市町村受理日	平成24年1月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ユニット 1F」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502348&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年10月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2Fアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に伴ない、各フロア理念を作成し、実践するように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩等にて地域の方々とのコミュニケーション等をはかるようにしている。又、町内会行事については可能なかぎり参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や通勤時に町内の方々にあいさつをし、又外掃除や外出時などに質問をされた際は、出来るだけ理解を頂けるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に約1回というペースで実施をし、現状報告し、改善案や理解をして頂けるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	こまめに札幌市役所の担当の方と連絡を取り、又ケース等で判断する際、意見を伺い実施している。又会議等には参加をし情報を得ている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の業務や会議の際に職員に説明を行ない、又単独的な判断を行なったりせず話し合いの場を設けるように努めている。治安上、玄関・フロアの施錠は実施しているが、入居者の様子にて職員が気づきにて開錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	業務や勉強会などの際には説明をし、主任中心の防止を努め、又ストレスなどを溜めないよう心のケアを行なっている。		

グループホーム 涼風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議や勉強会にて情報を得て状況に応じて入居者や家族の方々に説明をし、又職員の疑問に関しては主任筆頭に対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時より契約等には十分な説明をし、契約の際は契約書を渡し説明し納得の頂いた状況にて契約している。又、在籍中や解約時などの質問等は迅速に対応を努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際は必ず全利用者家族に出欠と意見を記載して頂くよう努め、又地方の家族、訪問回数のない家族には電話連絡にて要望や意見を伺うように努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や日常業務時など職員とコミュニケーションなど良くとるように心がけ、意見を話しやすい環境作りに努め、現場中心の運営を心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	心のストレス状況や努力、実績を把握し、職員の状況にあった環境を作り提供することを努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を実施したり日々の様子の中で職員が何を必要としているかを判断し情報を提供したりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会に参加し、又知人の同業者と交流する機会をもうけ、現状の介護界を理解し又涼風にあうものは積極的に取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より面談を実施しており、ご本人さまより要望等を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居後と面会時間をもうけており、ご家族様の意見等、把握するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に介護支援専門員も立会い、利用者さまの状況、ご家族様の意見を確認し、支援に反映できるような体制をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の状況に合わせ、無理のない様に配慮しながら、食器洗い・食器拭き等、お手伝いして頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時を通じ、状況報告し、意見交換する場を設けている。又、月に1度、手紙にてホームでの様子も伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を利用し友人、知人と接して頂いている。又、家族様の協力にて外出も出来るよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題を提供したり、レク、食事時間等を利用し、利用者様同士の関わりを多く持てる様に心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時には連絡が取れる体制を取っており、状況把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活における会話、行動を把握し「フロアシート」「ケース記録」等を利用して一人一人の思いに添えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に書面にて生活歴等の情報提供して頂いている。又、病院、施設からの情報提供書を元に把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活における会話、行動等を常に情報収集し、担当者が中心となって取りまとめている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	「モニタリングシート」を活用し、情報収集を行なっている。その情報を元に介護支援専門員と、担当者にて介護計画書を作成し、必要時には会議を行い意見交換し作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を「フロアシート」「ケース記録」に記入し、出勤時に確認を行い情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム長が勤務に入らず、状況に応じ対応が出来る体制を取っている。又、協力病院と連携をはかり24時間体制となっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入しており、地域の情報収集に努めている。今後もより深く、警察・消防・民生委員等と協働体制が取れるよう努めて行きたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力病院の説明を行なっているが、かかりつけ医の継続は自由であり、希望に沿った医療体制としている。かかりつけ医受診の場合は基本家族対応して頂いているが、必要に応じ支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子を注意深く観察し、その都度必要に応じて協力病院の看護師相談し受診等対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、情報交換を行い、必要時、相談等行なえるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じ、家族及び職員と話し合いの場を設け、ホームでの対応を理解して頂ける様、取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の変化を見逃さない様、カンファレンス、会議等で理解してもらっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、消防署立会いのもと、指導・訓練を行なっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合った声の大きさ、早さに気を付け、親しみやすい声掛けになるよう配慮し、プライバシーの確保にも気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話等で、ご本人の思いや希望を聞き取り支援できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイムスケジュールは決まっているものの状況に応じ変更し都度対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時又は入浴時に身だしなみを支援している。		

グループホーム 涼風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一部の利用者様に下ごしらえや片付け等手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「フロアシート」「ケース記録」に記入し、個々の状況に合わせた飲み物、食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいを実施し、場合によっては介助にて清潔を保持できる支援を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声掛け等を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1回の乳製品の摂取、体操への参加にて予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴となっているも、状況に応じ変更等を行い、楽しんで頂ける様支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操、散歩等で活動量を増やし、夜間の安眠が確保出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が利用者様一人一人の薬の内容を理解し、飲み残し等がないよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話や家事仕事等の参加により、楽しみのある生活が送れるように支援する。		

グループホーム 涼風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい時期に徒歩又は車椅子対応にて散歩に参加して頂いている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在の利用者さまの状況では、管理は困難と思われる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には対応できるよう支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度を朝、夕確認し、装飾等にて季節感を感じて頂ける様工夫している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにソファを配置し、誰でも自由に過ごせる空間作りに努めている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物等を持ってきて頂き、居心地良く過ごして頂ける様配慮している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在の状況にあわせた配置に気を配り、安全に過ごして頂ける様支援している。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム 涼風

作成日：平成 24年 1月 1日

市町村受理日：平成 24年 1月 6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	毎年度2回、火災対応訓練を行ってきたが、今年度はまだ、実施できていない。	1月と3月に予定をしており、火災の他に地震、水害等の災害も想定し行なっていきたい。	今年度内に2回、実施の予定。	1ヶ月
2	4	以前は2ヶ月に一度、実施していたも、現在はホームの状況にて実施していない状態となっている。	今年度内に2回ほど、開催の予定となっている。	12月に1度実施しており、今年度中にもう一回の開催を予定している。	1ヶ月
3	11	現状は、職員の意見を聞く機会はあるも、定期的な会議、勉強会が出来ておらず、職員全体での打ち合わせ回数が少なくなっている。	毎月、会議・勉強会を開催し全体での意見交換の場を増やし、運営に活かしていきたい。	1月より、定期的に会議、勉強会を実施する予定。年間を通して行なっていき、どのような形態が当ホームに合っているかを考えていく予定。	12ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。